

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（大学教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 18(86%) 2. 3(14%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 15(71%) 2. 5(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 16(76%) 2. 4(19%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 17(81%) 2. 3(14%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 13(62%) 2. 7(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 19(90%) 2. 2(10%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 15(71%) 2. 5(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 14(67%) 2. 5(24%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 14(67%) 2. 7(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 17(81%) 2. 3(14%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (10%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 14 (67%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (5%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (10%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 14 (67%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (5%)
- 4.その他： 3 (14%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：5クラス（順不同）

1. 今年度は対面で実施した。
2. 昨年度も同一科目を担当したが（担当回は各年3回）、一昨年は対面実施、昨年はコロナ感染対策のため完全オンデマンド実施、今年度は学生のコロナワクチン接種の関係で一部オンデマンド実施と、近年実施形態がコロナの影響でコロコロ変わっているので、単純な積み上げ式の改善にはなっていない。今年度は急遽ワクチン接種での一部オンデマンド実施に見合った講義内容と運営方法（自分の担当3回分）にしたのが改善点。
3. 本授業の最終的な課題であるプレゼンテーション発表に関して、15回の授業を通しての位置づけや連続性をより明確にしたり、教員による趣意文を加えたりすることで、学生の学びの深化を図った。
4. 新入生の最初の導入科目であることから、今年度は対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせ実施した。
5. コミュニケーション講座の開講を学生のクラス熟成度に合わせ、時期を早めた。その結果、例年に比較してワークなどの取り組みが非常に良かったと考える。今後も引き続き同様の時期に開講する。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：4クラス（順不同）

1. 評価できる点については、受講生に、レポートの目標、問い、そして問いの回答の見通しをまとめた目標規定文を予め作成させたり、執筆途中のレポートを添削したりすることで、こまめにフィードバックを与えた点である。反省点は、レポートのテーマ（日本語と英語の違い、英語の教え方・学び方）が想定以上に受講生にとってはアプローチしづらいものであった点、また、受講生が教員側のフィードバックを修正に結び付けているかどうかについてばらつきがあった点である。特にレポートの体裁を整えたり、出典・参考文献を明記したりする点が徹底されていないケースが多くあったため、今後の検討課題としたい。
2. ディベートに上級生を参加させることで議論の深化を図ったが、参加の仕方に課題があった。

3. コロナ対策として3密を防ぐためにZoomを使って2部屋で実施した。評価できる点は、偏りが生じないように、Zoomだけでなく2部屋を行き来して、学生の意見を聞く様に努めたことである。一方、反省すべき点は、今回の取組だけでは不十分なので積極的に学生に話しかけて、その結果、学生から積極的に意見が出るようにしないといけないことである。

4 グループディスカッションに、ZOOMのブレイクアウトルームを活用した。学生に質問するとおおむね好評で、いろいろコミュニケーションができることで好感触であったが、その中で疎外感を感じる学生がおり、その学生の把握、フォローがZOOMでは実施しにくいという問題があった。

Q15. FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16. 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1. はい： 16 (76%)      2. いいえ： 4 (19%)      未回答： 1 (5%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17. 下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

1. 聞いて理解する： 8 (50%)
2. 読んで理解する： 6 (38%)
3. 自分の考えをまとめて話す： 10 (63%)
4. 自分の考えを文章にまとめる： 13 (81%)
5. 討論する： 7 (44%)
6. 皆の前でプレゼンテーションする： 10 (63%)
7. その他： 2 (13%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：5クラス（順不同）

1. 各受講者がパワーポイントを用いて、レポートのテーマ・トピックに選んだ内容と調査概要を取り纏めた中間構想発表を行った。
2. 学力に関してディベートやプレゼンテーション発表等を行った。
3. 3名1班として、班分けを行った。最初に、班内で課題探索の討論をして、一つの課題を提案してもらうスタイルにした。次に、決めた課題について、個人でレポートを作成してもらった。その後、完成したレポートを作成者が班内と別班に説明して、他者に理解してもらうようにした。また、別の新たな班にも説明して、相手が何を言っているのかを理解して、簡潔にまとめてもらう論述を課題として課した。色々な課題を出すと、やる学生とやらない学生の2極化になるので今後、学生が自主的に取組ようにすることが重要だと感じた。

- 自分たちの間だけのプレゼンテーションだけでなく、修士学生のより洗練されたプレゼンテーション、立ち振る舞いを聴講し、目標とするプレゼンテーションを意識させる取り組みを行った。
- 担当者は看護におけるコミュニケーションの授業（2コマ）も担当しているので、学生はコミュニケーションの知識・技術を多角的な視点で学べていると考える。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 16 (76%)      2.いいえ： 4 (19%)      未回答： 1 (5%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 15 (94%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 1 (6%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 3 (19%)      2.政治・経済・産業： 8 (50%)  
3.自然環境・フィールド体験： 8 (50%)      4.その他： 4 (25%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：2クラス（順不同）

- SDGsと関係ある宮崎の地域産業、取り組みを、各自が調べて整理する探求学習の題材とした。
- 宮崎市健康支援課と人財科学研究所 工藤氏による「ゲートキーパー養成講座」を開催している（2コマ）。宮崎県の自殺率の高いことを踏まえ、まずはひとりひとりが身近な人の声を傾聴し、大切な命を守ろうという講座である。

**E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 3 (14%)      2.10%以内： 1 (5%)      3.10%～20%： 4 (19%)  
4.21%～30%： 1 (5%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 2 (10%)  
7.51%～60%： 2 (10%)      8.61%～70%： 1 (5%)      9.71%～80%： 1 (5%)  
10.81%～90%： 3 (14%)      11.91%～100%： 2 (10%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 8（44%）      2.双方向（対話・討論）： 7（39%）  
3.グループワーク： 11（61%）      4.フィールド型： 3（17%）      5.メディア活用： 9（50%）  
6.TA活用： 1（6%）      7.その他： 2（11%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0（0%）  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 4（19%）  
3.英語のみで板書している： 0（0%）  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 2（10%）  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 1（5%）  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 3（14%）  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1（5%）  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0（0%）  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0（0%）  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（情報・数量スキル）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 11(85%) 2. 1(8%) 3. 1(8%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 11(85%) 2. 2(15%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 7(54%) 2. 6(46%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 10(77%) 2. 3(23%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 5(38%) 2. 6(46%) 3. 2(15%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 9(69%) 2. 3(23%) 3. 1(8%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 7(54%) 2. 3(23%) 3. 3(23%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 7(54%) 2. 3(23%) 3. 3(23%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 6(46%) 2. 6(46%) 3. 0(0%) 4. 1(8%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 8(62%) 2. 5(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）

- 1.他教員の授業参観： 1 (8%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 8 (62%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (8%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）

- 1.他教員の授業参観： 1 (8%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 7 (54%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (8%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：6クラス（順不同）

1. 対面での実施を希望した学生の声を反映し、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら対面でのプレゼンテーション大会を実施し、プレゼンテーションを学生に経験してもらった。
2. 昨年度のオンデマンド講義が「繰り返し講義内容を参照することができ、理解の助けになった」「自分のペースで学習できた」という評価があったため、昨年度の動画を講義後にアップロードし、復習の資料とした。
3. 講義中は教室の巡回し、理解できていない学生を1名でも減らすように努めた。
4. 使用するデータの更新。Webテキストの改善。
5. (1) 対面授業が可能な期間においても、渡日できない外国人留学生のためにオンライン授業を同時に実施した。(2) 次回の授業予定について授業日の数日前にWebClassのメールにより連絡して、受講生へリマインドを促した。
6. 今年が初めての担当でした。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：5クラス（順不同）

1. 課題ができるか不安と感じていた学生もいたが、毎週の課題をこなして気付けば達成できていたという学生の声が聞けた。学生間の能力の差が大きい中で、どのように課題設定をして、どのレベルの学生も学ぶものがあり、おおよそ達成できるようにするかが、引き続き課題である。
2. PCの使用法だけでなく、メールの作成方法について講義を行った。非常に幼稚な文章を書いていた学生も、講義後には正しく日本語を使ったメールを書くことができるようになった。
3. 毎回の授業の最後に授業の振り返りアンケートを実施した結果、毎回の授業で75%以上の学生（受講登録人数63名）が理解できたと回答しており、出席不足者なく、合格率はほぼ100%、85%程度の学生が優以上の成績となっており、当授業はほぼ問題なく実施できたといえる。
4. 学生の情報リテラシーは格段に向上しており、情報数量スキル自体の存在意義が薄れている。来年度はデータサイエンスに移行していくべきと感じている。
5. 授業の進行を学生の理解、作業の進行を確認しながら進めた点がよかった。その際、TAにも補助をお願いした。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：2クラス

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 9 (69%)      2.いいえ： 3 (23%)      未回答： 1 (8%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 3 (33%)
- 2.読んで理解する： 1 (11%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (22%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 3 (33%)
- 5.討論する： 1 (11%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 5 (56%)
- 7.その他： 1 (11%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：3クラス（順不同）

1. 新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら対面でのプレゼンテーション大会を実施し、プレゼンテーションを学生に経験してもらった。
2. セリフ付きプレゼンテーション動画作成
3. 授業前にグループ内で毎回、アイスブレイクをさせた。その際、グループは2回に1回は変えた。

**D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 9 (69%)      2.いいえ： 3 (23%)      未回答： 1 (8%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 9 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)



Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

- 1.歴史・文化： 1（22%）      2.政治・経済・産業： 1（11%）  
 3.自然環境・フィールド体験： 6（67%）      4.その他： 3（33%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：1クラス（順不同）

1. 学生に宮崎県または、宮崎市を地元の友人、保護者に説明させるプレゼンテーション資料を作ってもらった。発表まではさせていない。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

- 1.0%： 0（0%）      2.10%以内： 0（0%）      3.10%～20%： 0（0%）  
 4.21%～30%： 0（0%）      5.31%～40%： 2（15%）      6.41%～50%： 3（23%）  
 7.51%～60%： 0（0%）      8.61%～70%： 0（0%）      9.71%～80%： 2（15%）  
 10.81%～90%： 2（15%）      11.91%～100%： 3（23%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 2（15%）      2.双方向（対話・討論）： 3（23%）  
 3.グループワーク： 3（23%）      4.フィールド型： 1（8%）      5.メディア活用： 10（77%）  
 6.TA活用： 8（62%）      7.その他： 2（15%）

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0（0%）  
 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 2（15%）  
 3.英語のみで板書している： 0（0%）  
 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0（0%）  
 5.英語のみの教材・資料を使用している： 2（15%）  
 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 1（8%）  
 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0（0%）  
 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0（0%）  
 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0（0%）  
 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0（0%）



教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 36(80%) 2. 9(20%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 26(58%) 2. 19(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 22(49%) 2. 22(49%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 22(49%) 2. 22(49%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 17(38%) 2. 24(53%) 3. 3(7%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 26(58%) 2. 19(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 28(62%) 2. 13(29%) 3. 4(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 28(62%) 2. 17(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 22(49%) 2. 23(51%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 28(62%) 2. 17(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (16%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 24 (53%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 7 (16%)
- 4.その他： 27 (60%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 9 (20%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 27 (60%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 9 (20%)
- 4.その他： 25 (56%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：16 クラス（順不同）

1. 今回は、前期が始まる前に、今まで利用していなかった Zoom を荒木先生、山本先生、内野先生のご協力を得て事前勉強会を数回開いていただいたおかげで、リアルタイムで授業を行うことができ、Breakout を利用してペアワークなどが行うことができたことが良かった。学生も非常に熱心にそれに応えてくれた。
2. WebClass の表記に日付を加えた。Zoom の新たな機能を使用し、学生の待ち時間を短縮させた。(2クラス)
3. 今年はできるだけ対面で授業を行った。語学に大事なコミュニケーションの部分を、遠隔ですべて行ったときよりも多く取り入れることが出来た。(2クラス)
4. 英語の理解力に個人差が見られるため、うまく答えられない学生には、グループで話し合い、次回までに考えてくるよう指示した。
5. グループ活動で、音読やプレゼンについて、仲間同士での評価をしてもらい、それを授業時に提出させるようにした。その結果、各学生の取り組みがよく分かるようになった。
6. 昨年度はすべてオンデマンドだったが、学生の孤独感を少しでも解消するために、今年度は Zoom によるリアルタイム授業を数回組み込んだ。(3クラス)
7. 遠隔事業の形で行ったため、学期の進め方、特に最終発表への準備のタイミングを改善した。全てのステップは学期末に行うことから、段階的に学期を通して少しずつ行うことにした。そのため、各学生へのしっかりとした個人的なフィードバックを提供できた。(2クラス)
8. 生徒の医療知識や英語レベルをより深く理解することができ、課題の設定もうまくできました。
9. Refinement of prioritization of clinical content. (臨床コンテンツの優先順位付けの改善)
10. Refinement of clinical content in English. (英語での臨床コンテンツの改善)
11. TOEIC スコアが評価の 50%を占めることから、TOEIC テストの概要紹介を少しずつ組み込んだ。

■参考■

・ Apologies, but this question seems somewhat irrelevant: everything that happened in our classrooms this last 18 months has been negatively impacted by COVID.

(申し訳ありません。この間で答えるべきではないかも知れませんが、私の授業はこの1年半コロナによってずっと悪影響を受けています。)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：13 クラス（順不同）

1. 教員が英語を話す時間を短くし、学生のスピーキング時間を確保する工夫を行っている点。（2クラス）
2. 対面と遠隔のバランスについて今後も検討していきたい。
3. Although I worked hard to prepare and use both on-demand and F2F materials for the course, the lack of opportunities to build rapport with students at the beginning of the semester, and the fact that after F2F activities began they were suddenly stopped had negative impacts on my ability to the teacher I know myself to be. （このコースのためにオンデマンド用と対面用の両方の教材を一生懸命準備しましたが、学期の初めに学生と信頼関係をきずく機会が足りませんでした、また、対面が始まって、それが急に中止となったりして、教員としての難しさを感じています。）
4. ①評価できる点：学生同士のディスカッションを踏まえたグループでのライティング活動を積極的に取り入れることができた。②反省すべき点：受講生にとっては難度がかなり高い教科書を選択・使用してしまったため、学習活動の自由度が制限されてしまった。
5. 使うテキストの説明を最初に丁寧にしたため、多くの学生が興味を持ってくれたことはよかった。何人かの学生が非常によい発表をしてくれたおかげで、他の生徒もよい反応が見られた。授業で扱っていない部分は、自分で読むことが課題であり、試験はテキスト全体を扱った。そのため、授業以外の範囲からの問題の出来不出来は個人差があった。最後まで読めた学生とそうでない学生が出た可能性があるので、今後、全員が最後まで読める方策を考えたい。
6. テキストは興味深い内容で、また自学自習にも適しているものを使ったので、この点はよかったと思う。映画の内容チェックのための問題の解答が、ひとつだけではないことがあり、そのあたりの説明をもう少し分かりやすくできたらよかったと思う。
7. 今回は、前期が始まる前に、今まで利用していなかった Zoom を荒木先生、山本先生、内野先生のご協力を得て事前勉強会を数回開いていただいたおかげで、リアルタイムで授業を行うことができ、Breakout を利用してペアワークなどが行うことができたことが良かった。学生も非常に熱心にそれに応えてくれた。
8. 批判的に考えてもらい、診断について考えてもらうことができました。しかし、今後は、患者が誰で、どんな症状があり、どんな質問をすればいいのか、もっと考えてもらいたいと思います。
9. Increasing opportunities for students to expand/extend English production. （2クラス）  
（学生が英語での創作活動を広げる（伸ばす）機会を増やしたこと。）
10. 教科書通りの展開になってしまいます。タスクの前にブレインストーミングをすることで、生徒の批判的思考、質問形成、自律的学習をもっと発展させたいと思っています。そして、自分の知識とのギャップを確認します。
11. 対面と遠隔のバランスについて今後も検討していきたい。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0 クラス

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 44 (98%)      2.いいえ： 1 (2%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 32 (73%)
- 2.読んで理解する： 43 (98%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 30 (68%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 27 (61%)
- 5.討論する： 17 (39%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 21 (48%)
- 7.その他： 10 (23%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：21 クラス (順不同)

1. **Vocabulary Practice**、意味確認の動画を利用し自ら英語、日本語を口にする機会を設け、**Breakout** 利用してペアワークでフォローアップした。学生も熱心に応えてくれ、回を増すごとにテンポよくできるようになった。
2. 学生がグループ毎に英語でディスカッションを行う取り組み (2クラス)
3. 様々なトピックについて英語で相手に分かりやすく伝える練習を行った。
4. **Presentation sessions, with student note-taking, discussion, and self-evaluation reflective writing are at the heart of my pedagogy. In addition, the foundation of my teaching practice is group work for students, encouraging them to engage with both textbook and supplementary learning materials.**  
(学生がメモを取り、討論し、自己評価を書くプレゼンテーション活動は、私の教育学の中心と考えています。さらに私の教育実践は、教科書と補助教材の両方をかみ合わせたグループワークの推奨を基本としています。)
5. ①リーディング活動において、英語の読解スキルを身に付けるための学習者同士のディスカッションを取り入れた。②ライティング活動において、グループで話し合いながら教科書のパッセージの要約を英語で書かせるトレーニングを行った。
6. 2回発表をさせている。一回目は、英語の音読だが、二回目は自分の好きな場面の感想を話すことにしている。この二回目の発表により、学生のテキストの理解度がよく分かる。また、よい発表をした学生からよい刺激をもらう学生が見られた。
7. グループに分けて学習活動を行っている。
8. **WebClass** 掲示板を利用してグループ・ピアラーニングを行なった。(3クラス)
9. **Vocabulary Practice** や意味確認等の動画を利用して学生が自ら声を出す機会を多く設けた。
10. 調べ学習し、内容をまとめて口頭発表を行った。(4クラス)
11. グループディスカッション、ケースを開発して発表するグループプロジェクト。
12. **Increasing opportunities for students to expand/extend English production.** (2クラス)  
(学生が英語での創作活動を広げる(伸ばす)機会を増やしたこと。)
13. ロールプレイ活動
14. 読んだ英語の本の内容の概要と自分の感想を、分かりやすく端的に説明する活動

**D (Q19～Q22) :** 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 7 (16%)      2.いいえ： 38 (84%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 6 (86%)      2.6回～10回： 2 (29%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 2 (29%)      2.政治・経済・産業： 7 (100%)  
3.自然環境・フィールド体験： 7 (100%)      4.その他： 1 (14%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：2クラス（順不同）

1. 学生の故郷紹介。
2. 学生の大好きな故郷紹介文作成。

**E(Q23～Q24) :** 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 4 (9%)  
4.21%～30%： 5 (11%)      5.31%～40%： 3 (7%)      6.41%～50%： 4 (9%)  
7.51%～60%： 2 (4%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 5 (11%)  
10.81%～90%： 3 (7%)      11.91%～100%： 19 (42%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 10 (22%)      2.双方向（対話・討論）： 22 (49%)  
3.グループワーク： 39 (87%)      4.フィールド型： 3 (7%)      5.メディア活用： 32 (71%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 12 (27%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 17 (38%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 30 (67%)
- 3.英語のみで板書している： 16 (36%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 26 (58%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 26 (58%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 27 (60%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 31 (69%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 21 (47%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 35 (78%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 23 (51%)



教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（初修外国語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 21(72%) 2. 7(24%) 3. 1(3%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 19(66%) 2. 10(34%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 23(79%) 2. 6(21%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 25(86%) 2. 4(14%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 21(72%) 2. 8(28%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 22(76%) 2. 7(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 20(69%) 2. 9(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 24(83%) 2. 5(17%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 17(59%) 2. 12(41%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 19(66%) 2. 10(34%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 5 (17%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 8 (28%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 6 (21%)
- 4.その他： 8 (28%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 13 (45%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (45%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 16 (55%)
- 4.その他： 8 (28%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：14クラス（順不同）

1. 対面授業と遠隔授業の並存に適応すること。(5クラス)
2. 昨年度はコロナウイルスの影響をもろに受けた年度で、殆どの授業が遠隔だった。しかし、今年度は最初のうちだけ遠隔で、後はほぼ対面授業を行えたので、ドイツ語についての説明を学生の理解を確認しながら授業を進められた。(2クラス)
3. 時期を見て、対面、同時双方向、オンデマンドを使い分けた。(2クラス)
4. 対面授業を実施しましたので、学生の理解度を直接に確かめることができた。
5. 昨年度に引き続き今年度もオンデマンド型の授業にしているため、講義動画の質的向上を図りつつ、インターネットやシステムのトラブルへの対応などもよりスムーズにできるようになったと思う。一部の科目は対面授業も取り入れるなど、昨年度の不備の改善を試みた。(4クラス)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：13クラス（順不同）

1. 私の授業では、学生に過度の暗記を強いることを避け、最小限度の必要な変化等を暗記させる形で要点への重点化をはっきりさせた。学生は無駄な労力を費やすことなくドイツ語の基本の学習に集中できたのではないか。
2. コミュニケーションに時間を割いて、フランス文化のよもやま話などの時間が少なくなったのが残念だった。とにかく基礎を徹底的に行うことに専心した。
3. 学生にはオンライン上でテストをする際には、取り組み可能な時間帯に幅を持たせた。理由は、各自にとって最も良いネット状況を選んでもらうためである（学内ネットワークの安定性の良さの優先、自宅でのネット環境が良い時間帯など）。(2クラス)
4. 今回の授業ではコロナ禍の影響で発音指導やグループ分けでの会話練習ができなかったのが、学習到達度をチェックするために、小テストや課題などを出し、学習到達度を維持できたと思われる。
5. 講義動画は学生から高評価を受けており、実際成績も全体的に上がっている。ただ、学生と直接触れる機会が少ないのはオンデマンド型授業の難点なので、今後は対面授業をどう効率的に取り入れるか考えていきたい。(4クラス)

6. オンライン授業が多かったため、Webclass 上でこまめに連絡を取る必要があった。積極的にコミュニケーションを取ろうと Webclass 上のあらゆる手段（メッセージ、タイムライン、毎回の授業アンケート、課題のコメント欄、お知らせなど）を用いたが、どれにも気づかない学生が少なからずいて大変だった。特に課題のフィードバック、再提出指示には膨大な時間と努力を費やしたがその甲斐もなく…心折れそうなことも多々あった。特に課題コメント欄の確認やメッセージの確認などは、学期初めにライブなどで口頭で指示し返信をもらうなどしてしっかり覚えさせる必要があると感じた。（3クラス）
7. 学生には過度な暗記を強いることなく、必要最低限のドイツ語の基本のみの変化等を覚えさせることで、何が重要点を明確にした。辞書で分かることは覚えることをさせなかった。

Q15. FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16. 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1. はい： 29 (100%)      2. いいえ： 0 (0%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17. 下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1. 聞いて理解する： 24 (83%)
2. 読んで理解する： 24 (83%)
3. 自分の考えをまとめて話す： 7 (24%)
4. 自分の考えを文章にまとめる： 4 (14%)
5. 討論する： 2 (7%)
6. 皆の前でプレゼンテーションする： 5 (17%)
7. その他： 3 (10%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：7クラス（順不同）

1. 読んで理解する点でのコミュニケーション能力を付けることを主眼にして、名詞の性や複数形の暗記は強いなかった。基本のドイツ語の特徴を学ぶことにより、読解力を付けることを中心にした。
2. 毎授業ごとに必ず1対1のコミュニケーションを行いながら授業を進めた。毎授業で8割か9割は当たる方式。
3. 中国語で自分の名前を言えるようにする。（2クラス）
4. 簡単な文章を読む。自己紹介の練習。
5. 韓国語で自分を紹介して簡単な会話で交流できるようにする。
6. ドイツ語文を読んで理解するという意味でのコミュニケーション能力を付けることを主眼とした。従って、名詞の性や名詞の複数形等を暗記させることを避け、辞書で分かることは中心から外して、ドイツ語の中核たる特徴を学ぶことに重点を置き、コミュニケーション能力を付けることを狙った。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 2 (7%)      2.いいえ： 27 (93%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 2 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化： 1 (50%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)  
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 2 (100%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：2クラス（順不同）

1. 宮崎の地名を文例に使ったり、宮崎弁の特徴とフランス語の特徴を比較したり、宮崎で触れ合えるフランス語の話を盛り込んだりした。
2. 宮崎に韓国の人が来た時のため、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。

**E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 2 (7%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 3 (10%)  
4.21%～30%： 5 (17%)      5.31%～40%： 10 (34%)      6.41%～50%： 2 (7%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 0 (0%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 7 (24%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.少人数（10人程度）： 7 (26%)      2.双方向（対話・討論）： 12 (44%)  
3.グループワーク： 9 (33%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 17 (63%)  
6.TA活用： 8 (30%)      7.その他： 10 (37%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 3 (10%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 6 (21%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（保健体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2(50%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 4(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 2(50%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 3(75%) 2. 1(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 1(25%) 2. 3(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 3(75%) 2. 1(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 2(50%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1(25%) 2. 3(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 3(75%) 2. 1(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 3(75%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。**

**Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (50%)
- 4.その他： 1 (25%)

**Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 4 (100%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

**Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。**

回答：2クラス（順不同）

1. 昨年度はすべてオンデマンド方式であったため参考にしづらいが、オンデマンド対応にならないよう学生へ感染対策の指導を徹底した。また、オンデマンドにならざるを得ない授業回の課題においても、知識とその実践を結びつけた課題提示をおこなえたと考える。
2. 昨年度はすべてオンデマンド方式であったことを踏まえ、WebClassをいっそう活用した。

**Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：4クラス（順不同）**

1. 授業準備において、配布資料等を用意し学生の意欲を高め、技術・ルール等の理解促進を図っている点はよい。授業内容というより、運営面に関して、雨天時の屋内施設利用について他教員との連携をスムーズにおこなえるとよい。
2. 怪我をしてしまった学生がいたので、ゲーム中に怪我等がない授業を心がけたい。また、授業の時間の少しオーバーしてしまった事があったので、時間配分に気をつけたい。
3. WebClassの課題提示において、補足、留意事項などを改善した。また、雨天時の授業についても、学生の学びや交流を深める体験を組めたことは評価できる。その雨天時をはじめとする運営面において、教員間の事前の打ち合わせができるとうい。
4. 女子が多いクラスであったので、運動レベル、活動レベルに差があったので、そこはルールを変えるなどうまく調整をするべきだと思った。

**Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。**

提出：0クラス

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 4 (100%)      2.いいえ : 0 (0%)      未回答 : 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 0 (0%)
- 2.読んで理解する : 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 3 (75%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 1 (25%)
- 5.討論する : 1 (25%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 0 (0%)
- 7.その他 : 2 (50%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 3クラス (順不同)

1. 一人一人意見や協調性を持たせ、みんなで協力してチームプレーを行う事を意識させた。
2. 身体を介した課題解決型のグループエクササイズによって、コミュニケーションの在り方について理論と実践を学ぶ機会を設けた。
3. 一人一人意見や協調性をもってグループで討論し、チームプレーを行う事を意識された。出来るだけ、全員とペアを組むようにし、コミュニケーションを図った。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい : 0 (0%)      2.いいえ : 4 (100%)      未回答 : 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回 : 0 (0%)      2.6回～10回 : 0 (0%)      3.11回～15回 : 0 (0%)  
未回答 : 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化 : 0 (0%)      2.政治・経済・産業 : 0 (0%)
- 3.自然環境・フィールド体験 : 0 (0%)      4.その他 : 0 (0%)



Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)	2.10%以内： 0 (0%)	3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%)	5.31%～40%： 0 (0%)	6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 0 (0%)	8.61%～70%： 0 (0%)	9.71%～80%： 2 (50%)
10.81%～90%： 2 (50%)	11.91%～100%： 0 (0%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%)	2.双方向（対話・討論）： 0 (0%)	
3.グループワーク： 4 (100%)	4.フィールド型： 0 (0%)	5.メディア活用： 0 (0%)
6.TA 活用： 0 (0%)	7.その他： 2 (50%)	

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（専門基礎）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 13(76%) 2. 4(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 12(71%) 2. 5(29%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 12(71%) 2. 5(29%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 13(76%) 2. 4(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 8(47%) 2. 7(41%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(12%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 10(59%) 2. 6(35%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(6%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 9(53%) 2. 8(47%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 10(59%) 2. 7(41%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 7(41%) 2. 9(53%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(6%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 12(71%) 2. 5(29%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。**

**Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 1 (6%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 10 (59%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 2 (12%)

**Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 3 (18%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 12 (71%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (12%)
- 4.その他： 2 (12%)

**Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。**

回答：10 クラス（順不同）

1. 遠隔授業については、振り返り学習課題を設定し、学習内容が定着するように工夫を行った。
2. 宿題の解説を詳しくし、自主学習できるようにした。基本的にオンデマンドによる講義であったが、対面での演習の回も用意し、学生が演習問題を解いたり対面で質問できたりする機会を作った。(3クラス)
3. 必修科目であることから理解度がバラバラではあるが、教員2名体制であるので学生の質疑応答などの対応を充分に実施した。
4. 昨年度の動画を利用し、一部反転授業を行った。
5. クラスメイトとの意見交換が出来るよう、zoomのブレイクアウトルームによるペアワークの回数を増やした。
6. 昨年度はオンデマンドだったので、今年は教室の対面授業で学生の理解度を探りながら進めることができた。
7. 実地指導の授業をなるべく対面で行えるよう、感染症対策に留意しながら実施した。
8. グループ学習を復活させた。

**Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。** 回答：6 クラス（順不同）

1. 今年度は、過年度の学生に補習講義を提供し、過年度の学習を促すことができた。来年度以降は、対面での演習の機会を増やし徐々に反転授業を取り入れていきたい。(3クラス)
2. オンデマンドと併用したため学生の理解度は上がったが、自宅学習の差が理解度の差となった。学生の意欲をもう少し上げていく必要を感じた。
3. テスト対策のためだけでなく、将来（教員就職後）に向けて要所を強調するなどしたことで、リアクションペーパーにも記憶に残った内容が記述されていた。実際に役立ててほしいと考えている。
4. 複数の授業担当教員間での評価基準のすり合わせの必要を感じた。

**Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。**

提出：0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 7 (41%)      2.いいえ： 8 (47%)      未回答： 2 (12%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 5 (71%)
- 2.読んで理解する： 5 (71%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (29%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 5 (71%)
- 5.討論する： 3 (43%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 1 (14%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：4クラス（順不同）

1. グループワークを実施し、過大の理解度を上げ、なおかつ学生同士の教え合う環境を整えた。
2. 講義と関連した資料を用意し、講読する時間を設けた。講読内容について隣同士でディスカッションする時間を設けた。ディスカッションの内容を踏まえ、事後に感想をまとめて提出するよう求めた。
3. オムニバス形式でなされた本授業において、各教員の講義内容ごとにレポート等の課題を科すことで、講義内容を主体的に理解し、発信するという側面でのコミュニケーション能力の育成を図った。
4. 講義の主要な内容と関連した講読資料を用意した。この講読資料は事前に参照できるように webclass 上で学生に示した。授業当日には、講読資料と関連付けながら授業を進行し、講読資料の内容と関連付けた問を3題立て、問への回答を隣の学生同士でディスカッションする機会を設けた。最後に代表者数名を指名し、ディスカッションの内容を発表してもらった。事後にはディスカッションの内容を踏まえたレポート課題の提出を求めた。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 4 (24%)      2.いいえ： 11 (65%)      未回答： 2 (12%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 4 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 2 (50%)      2. 政治・経済・産業： 1 (25%)  
3. 自然環境・フィールド体験： 2 (50%)      4. その他： 1 (25%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23. 全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- 1.0%： 4 (24%)      2.10%以内： 2 (12%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 4 (24%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 0 (0%)  
7.51%～60%： 2 (12%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 1 (6%)  
10.81%～90%： 1 (6%)      11.91%～100%： 2 (12%)

Q24. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 0 (0%)      2. 双方向（対話・討論）： 5 (38%)  
3. グループワーク： 8 (62%)      4. フィールド型： 0 (0%)      5. メディア活用： 5 (38%)  
6. TA 活用： 0 (0%)      7. その他： 1 (8%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25. 次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 0 (0%)  
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)  
3. 英語のみで板書している： 0 (0%)  
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 11 (65%)  
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)  
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 2 (12%)  
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)  
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)  
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)  
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（専門教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 4(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 3(75%) 2. 1(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 2(50%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 4(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 2(50%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 4(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 0(0%) 2. 2(50%) 3. 2(50%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1(25%) 2. 3(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 1(25%) 2. 3(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 3(75%) 2. 1(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

**Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 1 (25%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 3 (75%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

**Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)**

- 1.他教員の授業参観： 1 (25%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

**Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。**

回答：2クラス（順不同）

1. 以下の問14記載の事情で急遽遠隔実施になったが、昨年度に引き続き2年目の遠隔実施なので、学生とのコミュニケーションや連絡方法の改善ができ、昨年度よりスムーズな講義ができた。
2. コロナ禍のため昨年度同様グループワークができなかったが、感染対策を万全に扉と窓を開放し、マスク着用上、隣同士2名で前を向いたまま、与えたテーマに関し話し合いをさせ、アクティブラーニングを実践するように試みた。

**Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：2クラス（順不同）**

1. 新型コロナの水際対策の影響で、来日ができるかもしれないしできないかもしれない、いつ対面講義になるかもしれない、また講義予定日が日本への移動日になるかもしれない、という不確定なスケジュールの中での実施になった。結果的には来日ができず、全て遠隔かつオンデマンドでの実施になった。このため、当初の対面講義としての予定通りには講義運営はできなかったものの、この条件の中で教育効果を保つ内容にはできたと思う。
2. やはりコロナ禍という制約があり、学生同士のグループワークが制限されるため、教育効果が例年より低いと思われる点が反省すべきところである。

**Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。**

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 3 (75%)      2.いいえ： 1 (25%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 2 (67%)
- 2.読んで理解する： 2 (67%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 2 (67%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：2クラス（順不同）

1. 問14で答えた事情のため遠隔かつオンデマンド実施になったので、学生発表などはできなかったものの、学生が提出した課題を講義資料として取り入れる等、疑似的に学生発表に共通する効果を狙った講義回も取り入れた。
2. 肺炎症状を呈している高齢患者が、治療を拒否していると思われる場面設定の映像を視聴させ、自分自身が担当医であつたらどのように判断するのか、また根治不可能な神経疾患患者が人工呼吸器を外して欲しいという要望書を倫理委員会に提出したケースに関し、学生自身が倫理委員会のメンバーであつたとしたら、どのように判断するか等、学生同士で話し合いをさせ、自らの倫理的判断を論理的に整理し、文章化するスキルトレーニングを実施している。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 2 (50%)      2.いいえ： 2 (50%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 1 (50%)      2.6回～10回： 1 (50%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 1 (50%)      2.政治・経済・産業： 1 (50%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 1 (50%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。      回答：0クラス（順不同）



**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 1 (25%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 2 (50%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 0 (0%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 0 (0%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 1 (25%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 2 (50%)      2.双方向（対話・討論）： 2 (50%)  
3.グループワーク： 0 (0%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 4 (100%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 0 (0%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 3 (75%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 1 (25%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 1 (25%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 2 (50%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1 (25%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 2 (50%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 前期（環境と生命）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 16(84%) 2. 3(16%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 12(63%) 2. 7(37%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 10(53%) 2. 8(42%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 12(63%) 2. 7(37%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 10(53%) 2. 9(47%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 12(63%) 2. 6(32%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 8(42%) 2. 8(42%) 3. 2(11%) 4. 1(5%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 7(37%) 2. 10(53%) 3. 1(5%) 4. 1(5%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 5(26%) 2. 14(74%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 11(58%) 2. 8(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

**Q11.** この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 14 (74%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 2 (11%)

**Q12.**今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 15 (79%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (5%)

**Q13.**昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：7クラス（順不同）

1. スライド見やすく改善した。
2. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てる最新のトピックを講義内容に追加した点。
3. 資料のバランスを見直した。
4. Zoom の仕様に際し、学生への操作の説明を十分に行い、ブレイクアウトルームなどの実施に支障をきたさないようにした。(2クラス)
5. 昨年度に引き続きコロナ感染対策でオンデマンド講義になった。もともとグループワークを想定した内容だが学生のレポートを教員がまとめてオンデマンドで情報共有するなど、グループワークに類似の教育効果を狙った講義を行った。(2クラス)

**Q14.**自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：1クラス（順不同）

1. ZOOM のブレイクアウトルームを用いたグループディスカッションが、やりやすい学生とそうでない学生がいたのではないかとされる。司会進行や議論の内容などは事前に示していたが、よりきめ細やかな工夫が必要ではなかったかと反省している。

■参考■

- ・オンデマンド形式で講義を行ったため、双方向の授業ではないので活動レポートの問に当てはまらない。

**Q15.**FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 17 (89%)      2.いいえ : 2 (11%)      未回答 : 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 4 (24%)
- 2.読んで理解する : 5 (29%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 9 (53%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 8 (47%)
- 5.討論する : 13 (76%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 8 (47%)
- 7.その他 : 2 (12%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 3クラス (順不同)

- 1.Zoom (原則ビデオ ON) のブレイクルーム機能を用いて、学生全員がプレゼンを行い、質疑応答を経て、学生の相互評価を行った。
2. グループワークを行わせて発表させた。
3. 少人数グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域 (宮崎) を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい : 12 (63%)      2.いいえ : 7 (37%)      未回答 : 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回 : 12 (100%)      2. 6回～10回 : 0 (0%)      3. 11回～15回 : 0 (0%)  
未回答 : 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化 : 3 (25%)      2.政治・経済・産業 : 5 (42%)
- 3.自然環境・フィールド体験 : 8 (67%)      4.その他 : 4 (33%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：1クラス（順不同）

1. 感染症に関するテーマを設定し、解説の中で宮崎の特徴（SFTS の発生状況、ジビエの消費程度、アニサキスの分布など）に触れた。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 3 (16%)	2.10%以内： 0 (0%)	3.10%～20%： 1 (5%)
4.21%～30%： 3 (16%)	5.31%～40%： 2 (11%)	6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 2 (11%)	8.61%～70%： 3 (16%)	9.71%～80%： 1 (5%)
10.81%～90%： 0 (0%)	11.91%～100%： 4 (21%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- |                        |                       |                   |
|------------------------|-----------------------|-------------------|
| 1.少人数（10人程度）： 11 (69%) | 2.双方向（対話・討論）： 6 (38%) |                   |
| 3.グループワーク： 9 (56%)     | 4.フィールド型： 0 (0%)      | 5.メディア活用： 4 (25%) |
| 6.TA 活用： 0 (0%)        | 7.その他： 2 (13%)        |                   |

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 6 (32%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 4 (21%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 44(71%)    2. 13(21%)    3. 0(0%)    4. 1(2%)    未回答 4(6%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 39(63%)    2. 19(31%)    3. 0(0%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 34(55%)    2. 24(39%)    3. 0(0%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 37(60%)    2. 21(34%)    3. 0(0%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 29(47%)    2. 27(44%)    3. 2(3%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 42(68%)    2. 16(26%)    3. 0(0%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 39(63%)    2. 16(26%)    3. 3(5%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 31(50%)    2. 18(29%)    3. 8(13%)    4. 1(2%)    未回答 4(6%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 32(52%)    2. 24(39%)    3. 2(3%)    4. 0(0%)    未回答 4(6%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 35(56%)    2. 20(32%)    3. 1(2%)    4. 0(0%)    未回答 6(10%)

**B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 11 (18%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 38 (61%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 6 (10%)
- 4.その他： 20 (32%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 15 (24%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 41 (66%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 8 (13%)
- 4.その他： 18 (29%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：24 クラス (順不同)

1. ①遠隔授業から対面授業になったことで、コロナ感染に不安感を持たせないよう授業環境を整備した。(空気清浄、非接触体温測定、アルコール除菌など) ②やむなく休む学生に備えて、できるだけ授業を録画してアーカイブスで見られるようにリスク管理を行った。(録画を使用することは無かった)  
③講義教員のライトアップで中心感を演出し、学生の集中力を高めた。④しっかり理解してもらうためにワークシートを追加した。
2. Refinement of English clinical content. (英語での臨床コンテンツの改善) (4クラス)
3. 板書は、ノートをとる学生の気持ちに立ち、昨年以上に丁寧に分かり易く書くように努力した。
4. 授業のテンポを速め、学習内容を拡充した。それはレポートのクオリティに反映されたように思う。
5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり、満足させたりするように最新科学情報を取り入れた。
6. 昨年度はすべてオンデマンド方式だったことを活かし、WebClass の活用機会を増やした。
7. 昨年度は、第1回目に15回分の資料・プリントを、対面で配付することができ、それはよかったと思われ、今年度もそのようにしたかったが、それはできなかった。その代わりに、火曜の授業で、前週の金曜にはプリントをwebclassに掲載するようにした(が、事前に確認する受講生は多いとはいえなかった)。
8. 講義資料の更新を行うとともに、画像資料などの充実を行った。
9. 昨年に続きオンデマンド方式による遠隔授業だったので、音声による説明をなるべく加えるなどの工夫を行った。
10. 昨年度の評価よりも、今年度の受講生とのやりとりで授業の展開(改善?)を図った。
11. 遠隔授業を活かし、発言しやすい環境を整えた。
12. 時期を見て、対面、同時双方向、オンデマンドを使い分けた。
13. 昨年度に引き続き今年度もオンデマンド型の授業にしているため、講義動画の質的向上を図りつつ、インターネットやシステムのトラブルへの対応などもよりスムーズにできるようになったと思う。一部の科目は対面授業も取り入れるなど、昨年度の不備の改善を試みた。
14. 今回は、前期が始まる前に、今まで利用していなかったZoomを荒木先生、山本先生、内野先生のご協力を得て事前勉強会を数回開いていただいたおかげで、リアルタイムで授業を行うことができ、Breakoutを利用してペアワークなどを行うことができたことが良かった。学生も非常に熱心にそれに応えてくれた。(2クラス)

15. 今年はできるだけ対面で授業を行った。語学に大事なコミュニケーションの部分を、遠隔ですべて行ったときよりも多く取り入れることが出来た。（2クラス）
16. TA 雇用手続き書類の効率化（2クラス）
17. Better integration of report task with final presentation task through clarified objectives.  
（目標をはっきりさせることで、最終プレゼンテーションの評価に、より一貫性を持つことができた。）
18. 学士力発展科目の①反以下の試行として、第1クォータ2単位科目を、第1クォータ1単位、第2クォータ1単位科目として実施した。

Q14. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：28 クラス（順不同）

1. マスク越しでもグループディスカッションに恐怖感があり、教員対受講生の1対多の対話や、書面での質疑応答になった。もう少し、グループワーク、グループディスカッションを行える授業環境にしたい。
2. Increasing opportunities for students to expand/extend English production.  
（学生が英語での創作活動を広げる（伸ばす）機会を増やしたこと。）（4クラス）
3. 学生の授業受講姿勢は、教師の教育姿勢にあると考え、毎回、授業開始10分前に教室に入室しコロナ禍のドア、窓の喚起に努め、チャイムの開始合図と同時に授業を開始して、授業時間を有効に活用した。また、授業終了後にも学生の質問に答えることにした。
4. 評価できる点はZoom ミーティングにおいて学生の指名と学生による発言の機会を大幅に増大させたことである。とくに小テストの解答への詳しい説明を本人からしてもらった点は、内容理解が進んだと学生から高く評価された。教員の発話中の音声の乱れについて原因を調査し、可能な範囲で改善したい。ネット接続が不安定なことによる遅刻や途中退室への対処について決め、学生に伝えるようにしたい。
5. アメリカ国務省（日本の外務省に相当：在福岡アメリカ総領事館がメイン）と協力して実施した授業であり、宮崎大学では初めての試みであった。海外からの中継など、新しく、チャレンジングな試みが少なくなかったが、他3名の先生のサポートのおかげでなんとか運営することができた。授業改善のために我々がとったアンケート（本アンケートに添付）でも、「大変満足した」、および「満足した」を合わせると100%であったため、学生の評価もそれほど悪くなかったと考えられる。特に、宮崎大学の教員が理論的・教科書的なことを授業し、アメリカ人外交官が実践的なことについて授業することによって、理論と実践の間を往復させる「サンドイッチ方式」により学生の興味を惹起することができたと感じる（例：私がアメリカの対外政策に関する授業を行い、次の週にアメリカ人外交官が実際の外交の現場について話すなど）。また、ディスカッションの時に各グループにそれぞれ教員が付き議論を促し、アドバイスができたので、アクティブラーニングを行う上で大変によかった。

アンケートの中で、宮崎大学教員及びアメリカの外交官など沢山の教員がかかわり、その方々とディスカッション等を多く行った結果、様々なことを思考する機会ができたことに関して肯定的な意見がみられた。私は、(いろいろな科目があるので一概には言えないが) 基礎教育の目的は専門科目などのように細かい部分を覚えるのはそれほど大切ではなく、基礎的な知識を活用して、論理力、思考力やコミュニケーション力などを育成するのが主目的であると理解しているので、基礎教育科目としてのひとまずの目的は果たせたと考えている。

上述の「サンドイッチ方式」が必ずしもすべての講義に当てはまるわけではなく、トピック的に独立してしまった講義や他講義とつながりが薄い講義もいくつか存在した。来期はシラバスを組みなおすことにより授業内容を綿密に練り上げ、それぞれの講義が有機的に連動し、学生の効率の良い学びにつながる授業を目指そうと考える。



6. 毎回の授業に関する質問に可能な限り丁寧に回答した。受講生 120 名の質問一つ一つに回答を付けた文書を作成 WebClass にて公開した。文書が A410 ページを超える事も多く、授業終了後、毎回 3 日ほどかけて回答文書を作成した。
7. 活発な学生が多く、活動に対して積極的である反面、基礎技術練習などを好まない学生が多くいた。基礎技能の重要性伝える必要があった。
8. 本時の学習への取り組みやの振り返りとして自己評価・反省のための学習カードの更なる効果的活用を図ることが課題である。
9. WebClass を活用した課題提示や学生とのコミュニケーションは促進された。授業の内容より、運営面に関して、説明を WebClass や基礎教育掲示板に載せたり、授業でも繰り返し説明したりするが、読んでいない、聞いていない学生が一部いることは今後の課題。
10. スポーツが得意でない学生に対して、技能を向上させる練習を十分にできないまま、試合を行っていた。
11. 前年度の授業評価や FD レポートの内容を、実際の翌年度の授業を進める過程で、特に意識して改善につなげることが難しく、授業の展開と FD レポートや学生の授業評価の結びつけができていないとは感じられない。  
\*自分の授業としての反省点でもあり同時に、授業評価や FD レポートのあり方についての検討・改善のお願いでもある。
12. 受講者数が多いこともあって、同時配信は難しいため、受講者との直接の質疑や理解度の確認ができなかった。それが試験の総点の極分化（対面授業時よりも低評価の者が増加）の一因であると思う。
13. 学生の要望を活かした、授業内容の柔軟な対応。
14. 当初、学習のアウトプットの機会として学生によるシンポジウムの企画・開催を計画したが、これにより受講生が激減した。学生らの積極性に任せるのは能力的に無理であると判断し、講師ら企画・実施に対応した。
15. 学部によって理解度の差が出ていたようだ。基本的な知識の差があるので、資料やデータ等の準備が必要だと感じた。
16. 学生にはオンライン上でテストをする際には、都合のいい時間帯をあらかじめ知らせてもらい、分けて対応した。理由は、各自にとって最も良いネット状況を選んでもらうためである（学内ネットワークの安定性の良さの優先、自宅でのネット環境が良い時間帯など）。
17. 講義動画は学生から高評価を受けており、実際成績も全体的に上がっている。ただ、学生と直接触れる機会が少ないのはオンデマンド型授業の難点なので、今後は対面授業をどう効率的に取り入れるか考えていきたい。
18. 教科書をあまり使わず、生徒がブレインストーミングをして、自分の知識とのギャップを確認することで、批判的思考力を養いたいと思っています。
19. 生徒に読んでもらい、他の人が聞いて理解度を確認することは、素晴らしいリスニングの練習になります。グループを混ぜることで、社会的な交流を図ることができます。自分で調べることは、自律的な学習につながります。学生にとっては大変なことですが、本当に素晴らしいコースなので、小さな部分を改善していく必要があります。  
(2クラス)
20. 対面と遠隔のバランスについて今後も検討していきたい。(2クラス)
21. 留学生 TA と日本人学生の交流機会を充実させる工夫を行っている点。同コース担当非常勤講師との連携。  
(2クラス)
22. Nothing in particular. Elective class attracts motivated students in general, so there are few obstacles to content delivery.  
(特にありません。選択科目は、たいていやる気のある学生が受講するので、配信で困っていることもありません。)

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：1クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 51 (82%)      2.いいえ： 7 (11%)      未回答： 4 (6%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 40 (78%)
- 2.読んで理解する： 40 (78%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 35 (69%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 36 (71%)
- 5.討論する： 21 (41%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 24 (47%)
- 7.その他： 14 (27%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：27クラス（順不同）

1. 授業の一コマ（30分）に『コミュニケーションとコンテキスト（文脈）』というテーマを取上げて、コミュニケーション能力を高めるために、論理的思考やプレゼン手法、アサーティブな姿勢などを具体的に解説し、ワークシート作成し課題提出させた。
2. Increasing opportunities for students to expand/extend English production.  
(学生が英語での創作活動を広げる（伸ばす）機会を増やしたこと。)(4クラス)
3. 授業関連項目について、学生に具体的な質問をして、挙手あるいは無作為に指名して自己の考えを発表させる機会を提供した。
4. 毎回の小テストにおける意見や主張の記述。グループディスカッション。リーディングアサインメント。レポートによる試験。
5. 講義の最初にアイスブレイクとして5分ほど簡単なトピックで隣席の学生とミニ・ディスカッションを行う時間を設けた。アイスブレイクを行うことで、①授業に関する頭づくりができる、②他の学生とコミュニケーションをとることで、後のディスカッションがしやすくなる効果があったと思われる。  
ほとんどすべての講義の中では、基本的に①説明する時間と、②議論する時間を交互に設けた授業設定を行った。アンケートの結果では、本手法に対して「メリハリがついた」等肯定的な意見がみられた。  
アメリカ国務省の外交官が講師の際のディスカッションでは、自分たちの班が纏めた意見を講師に発表させた。その意見に関して講師から多く質問なされ、そこでも「ミニ・ディスカッション」をし、議論を深めることができた。なお、実験的にはあるが、一部の希望する学生には、アメリカ人外交官に向けて英語で発表、および質疑応答を行った。英語でのコミュニケーションスキルを高める効果があったと思われる。

6. 学生の地元における特徴的な文化（たとえばお祭りなどの年中行事、独特な地域食、習慣など）を調べて、プレゼンしてもらった。120名全員分の発表（1人2分）をこなすのが大変で4週かかったが、いろんな地域のおもしろい事・物が紹介されたので、聞く側の学生も勉強になった。
7. コロナ渦の授業（対面式）では、活発な討論ができないなど制限があったため、特に自分で考え文章にするに重点を置いた。
8. 新たにチーム編成をしたとき、自己紹介をさせた。競技種目の経験者を中心にチーム作りをさせた。
9. チーム編成をした際に自己紹介や会話の場を設け、自分たちで練習内容を決め、試合に臨ませた。
10. 学生側から積極的な発言機会を設けた。
11. 社会人などの前で学生らによる各テーマに関する意見交換（トークセッション）を1時間程度行い、学生の意見発信の経験の場とした。
12. 他学部学生とのグループワークとグループ作業による資料作成。
13. 教科書の内容について、翻訳したものを各自に提出させた。
14. ロールプレイ活動。
15. グループワークが多く、聞き取りや説明、要点のまとめ、プレゼンテーションの内容を一緒に考えたり、ディベートの内容や戦略を一緒に考えたりします。（2クラス）
16. **Vocabulary Practice** の動画を利用し自ら英語、日本語を口にする機会を設け、**Breakout** 利用してペアワークでフォローアップした。学生も熱心に答えてくれ、回を増すごとにテンポよくできるようになった。（2クラス）
17. 自分の専門分野に関する内容について効果的に英語で説明をするスキルの学習を行った。（2クラス）
18. 留学生 TA と、プレゼンテーションを用いた英語による交流活動。（2クラス）
19. 調べ学習し、内容をまとめて口頭発表を行った。（2クラス）
20. **Project reports involve anticipation of discussion and preparation of questions to stimulate discussion.**  
（プロジェクトレポートは、議題を予測し、興味をそそる質問を準備した。）

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 22 (35%)      2.いいえ： 35 (56%)      未回答： 5 (8%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 15 (68%)      2.6回～10回： 1 (5%)      3.11回～15回： 6 (27%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 11 (50%)      2.政治・経済・産業： 12 (55%)  
3.自然環境・フィールド体験： 10 (45%)      4.その他： 7 (32%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：14 クラス（順不同）

1. 宮崎アカデミーロータリークラブの協力をいただいて、宮崎で活躍する企業、団体の幹部のキャリア紹介と共に、宮崎県での事業展開、企業活動を講義いただいた。14回×60分は、非常に有効な体験を、生で学生達に提供できた。地域の人、企業を知ら占めることができた。
2. 都道府県別あるいは地域別の経済統計、労働統計を教材として使用。
3. 今回の授業は、熊本県の食文化とそれを活用した地域振興に関するものであった。隣県ゆえ、宮崎県の場合と比較しながら授業を進めた。
4. 地域の博物館の活動や文化財についての紹介。
5. 地域に出向き、聞き書きをした。
6. 全ての講義コマにおいて、宮崎県内の施設を紹介した。また、そこで行われている仕事内容を紹介した。
7. 科目名称の通り、「50年後の宮崎」を考える講義であり、元宮崎県副知事や企業代表などをお招きして活動などをお話いただいた。
8. 実例を示した。
9. Increasing opportunities for students to expand/extend English production.  
(学生が英語での創作活動を広げる(伸ばす)機会を増やしたこと。)
10. 学生の故郷紹介文作成。
11. 台湾の大学生とそれぞれの地域の文化・社会・自然・社会の課題などについて、書き言葉と話し言葉(Zoom)でお互いに説明・討論を行う活動を行った。(2クラス)
12. Project Base Learning で身の回りについて、不便なことの対策法を考えてプレゼンテーションした。
13. 学生の大好きな故郷紹介。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合(1回の授業における割合は問いません) → 20%

1.0%： 1 (2%)	2.10%以内： 5 (8%)	3.10%～20%： 4 (6%)
4.21%～30%： 11 (18%)	5.31%～40%： 4 (6%)	6.41%～50%： 1 (2%)
7.51%～60%： 3 (5%)	8.61%～70%： 0 (0%)	9.71%～80%： 6 (10%)
10.81%～90%： 2 (3%)	11.91%～100%： 20 (32%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.少人数(10人程度)： 22 (36%)	2.双方向(対話・討論)： 33 (54%)	
3.グループワーク： 34 (56%)	4.フィールド型： 7 (11%)	5.メディア活用： 27 (44%)
6.TA活用： 4 (7%)	7.その他： 13 (21%)	

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

- 1.授業を英語のみで行っている： 13 (21%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 22 (35%)
- 3.英語のみで板書している： 13 (21%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 15 (24%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 14 (23%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 20 (32%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 20 (32%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 19 (31%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 25 (40%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 18 (29%)